

| | |
|----------|--|
| 対象 | 中学校 1 学年以上 |
| 教科 | 国語科・社会科、他 |
| 該当 単元 | 中学全学年（国語） ・ 漢字の読み方 中学歴史（社会） 「平安京と 東アジアの 変化」 など |
| 教科書 | 東京書籍等 |
| 掲載日 | 2019. 3. 6. 朝刊 飛驒版 |

問1：次の漢字の読みを書き
ましょう。

- ① 東風()
- ② 宮司()
- ③ 境内()

鮮やかなピンクの花を開いた
境内の梅 高山市天満町2で



問2：写真の梅は「肥後駒止」
ひごのこまどめ

と呼ばれています。
その理由をかき出しま
しょう。

東風に春の足音 高山・飛騨天満宮で紅梅開花

高山市天満町二の飛騨天満宮の境内にある紅梅が早くも開花し、鮮やかなピンク色の花が春の訪れを告げている。

この梅は、太宰府天満宮（福岡県太宰府市）にある紅梅の子孫。あまりの美しさに、肥後国（現在の熊本県）の殿様が乗っていた馬を止めて見入ったとの言い伝えがあり、「肥後駒止」と呼ばれている。菅原道真の没後千百年を記念し、二〇〇二年に飛騨天満宮に贈られた。

宮司の細江雅紀さん（六〇）によると、開花は例年より二週間ほど早く、現在は二分咲き程度。今月中旬には見頃を迎えるという。「もう少しすれば境内の他の梅も花開き、さらに美しい風景が楽しめる」と話している。（横田浩熙）

この梅は、
()にある紅梅の()で、あまりの()に
()の()が乗っていた馬を()、
見入ったという言い伝えがあるから。

発展①：この梅の親である梅は「飛梅」と呼ばれています。その理由を調べて
みましょう。

発展②：菅原道真が京都を離れる際に詠んだとされる和歌とその意味を調べて
みましょう。

【活用にあたって】

今回は発問内容から国語科・社会科を対象として挙げました。四季折々の風物を愛でる日本の生活習慣は日本の文化の一つであり、こうした小さな記事からもその良さが感じ取れます。中学における道徳でも「日本の良さ」が強調されていますが、1時間の授業でなくとも、こうした記事を活用することで多様な学びが短い時間でできると思います。

また、見出しの文字から和歌へ、和歌から作者へ、関連する場所へと発想を飛ばして学びを深めていくことは、真に今求められている学びといえるのではないのでしょうか。

解答例

問1： ①こち ②ぐうじ ③けいだい

問2： 太宰府天満・子孫・美しさ・肥後国・殿様・止めて

発展①：道真を慕う庭木たち(桜・松・梅)のうち、梅だけはその日一夜のうちに主人の暮らす太宰府に飛んで行き、その地に降り立ったから。

発展②：和歌：東風吹かばにほいをこせよ梅の花

主なしとて春な忘れそ(春を忘るな)・・・2通りあるとされています

意味：春風が吹いたら、香りをその風に託して、

太宰府まで送り届けてくれ、梅の花よ。

主人である私がないからといって、春を忘れてはならないぞ。

・・・太宰府天満宮ホームページより